

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にあわせた「東北ハウス」(仮称)の実現に向けて(案)

わが国の「復興五輪」の考え

世界の注目が日本に集まる東京2020大会の機会を国全体で最大限いかし、「復興五輪」として、東日本大震災からの復興の後押しとなるよう被災地と連携した取り組みを進めるとともに、被災地が復興を成し遂げつつある姿を世界に発信する。(平成27年11月27日 政府閣議決定)

具現化すると…

【コンセプト】 “感謝” “交流” “明日へ” をキーワードとした情報発信拠点「東北ハウス」(仮称)の都内設置

- 東京2020大会は、東日本大震災から10年目となる節目に、スポーツの力に支えられた被災地が復興を成し遂げつつある今の姿を世界に発信し、世界から寄せられた支援への“感謝”を伝えるまたとない機会である。
- また、世界中の人々に日本の地方を知ってもらい、地域性豊かな食文化など地域の魅力をアピールすることで、被災地そして東北との“交流”を一層深め、希望にあふれる“明日へ”向かって大きくはばたく機会である。
- このため、東経連では政府・東京都等の機関と連携して「東北ハウス」(仮称)を設置し、来日する多くの外国人や海外メディア等に対して、被災地が復興を成し遂げつつある姿、日本の地方・東北の魅力等を発信することで世界との交流を深め、未来を担う子供たちが躍動する新しい地域社会を創造する機会としたい。

■候補地

「東北ハウス」(仮称)は、大会期間中、数多くの競技が実施され、国内外から大勢の来訪者が見込まれる、東京都内への設置を目指している。

例えば、東北を発信するのに相応しい地点として、外国人が高い関心を寄せる国立の文化施設等が複数立地するほか、東北の玄関口であり、茨城・福島・宮城県南の沿岸被災地を通る常磐線の出発駅であるJR上野駅に近接する上野エリア(上野恩賜公園等)を要望していきたいと考えている。

■建 物

東北産の木材等を使用した仮設の屋内施設として検討。大会後は復興五輪を象徴する施設として、移設等により引き続きの活用を想定。

■発信内容一例

「復興を成し遂げつつある姿」、「日本の地方・東北の魅力」の2本柱により、コンセプトに示した3つのキーワード(“感謝”“交流”“明日へ”)に基づく内容を発信。

“感謝”

- 復興する姿の紹介を通じた感謝の伝達
(VRによる被災地の昔・今、復興に励む姿を伝える動画、太平洋側と日本海側の連携支援・インフラ環境 等)
- 東北発の新産業・技術の発信
(「廃炉創造ロボコン in 東京2020大会」の開催 等)

“交 流”

- 東北の魅力との交わり
(祭り・名所・花火等を高精細映像等で紹介、郷土芸能体験 等)
- 名産品との出会い
(物産販売(対面、VR活用の通信販売)、利き酒体験 等)

“明日へ”

- 次世代のグローバル・コミュニケーション
(海外と東北の子供・若者の交流の場づくり 等)
- 若者の活躍
(小学生オリンピック・レポーターの活動発表、東北の高校生による「希望レストラン」(仮称)の実施 等)



VRによる被災地の昔・今



廃炉創造ロボコン



高精細映像等による魅力紹介



名産品販売



東北の夏祭りの紹介



海外と東北の子供・若者の交流の場づくり



小学生オリンピック・レポーター



高校生「希望レストラン」(仮称)